エントランスホール

1F
1. 隅谷正峯展示室（常設1）
2. 壁画展示室（常設3）
3. 特別展示室
4. 資料室
5. 事務室
6. 管理スペース
7. ジオパークコーナー
8. てつどうの広場

2F
1. 常設展示室（2）
2. 研修室
3. 管理スペース

特別展示室

特別のテーマにもとづいて、一定期間行う展示を、年間数回開催します。

研修室

講習会、学習会等を開催します。

2F 常設展示室　中世

2F 常設展示室　近代

白山市立博物館
HAKUSAN CITY MUSEUM

ご利用の案内

■開館時間／午前9時～午後5時
（但し、入館は4時30分まで）

■休 館 日／毎週月曜日、年末年始
（但し、月曜日が祝日の場合は、その翌日）

■入 館 料／大人200円（団体100円）
高校生100円（団体50円）
中学生以下無料

※団体とは、代表者又は責任者を有する20人以上の集まりです。
※特別展の場合は別に定める額とします。

ご案内図

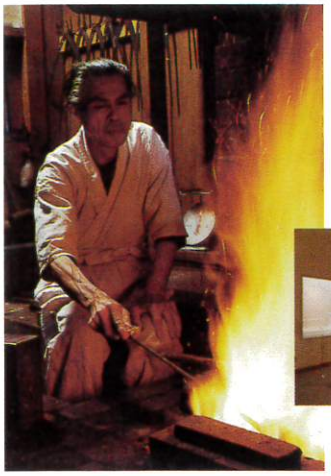
■お願い
展示品には手をふれないでください。
展示室内でのカメラの使用については、あらかじめ館長の許可を受けてください。
指定以外の場所には入らないようお願いします。
指定場所以外での飲食はご遠慮ください。
他人の迷惑にならないよう、静かに観覧してください。

白山市立博物館

〒924-0871 石川県白山市西新町168番地1
TEL076-275-8922　FAX076-275-8929

常設展示室（1） 郷土の人間国宝

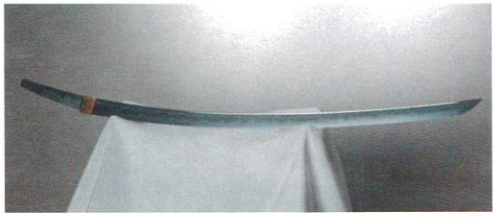
隅谷正峯作　太刀



刀剣作家 隅谷正峯（すみたに まさみね）（1921～1998）

隅谷正峯氏は、辰巳町に生まれ、重要無形文化財日本刀技術保持者（人間国宝）に認定されました。隅谷正峯氏の業績を讃え、その作品及びその制作の過程や姿などを模型・VTR等によって紹介します。

刀子　紅牙鞘白牙柏黄金蝉形荘



太刀

1941（昭和16）年20歳のときに立命館日本刀鍛錬研究所に入所し、桜井正幸の門人となり、日本刀の製作活動を始めました。その後、数多くの名刀工を輩出した鎌倉時代中期頃の日本刀、特に日本刀五ヶ伝のひとつである備前伝を生涯追い求め、その作風は絢爛豪華で「隅谷丁字」（すみたにちょうじ）と呼ばれ、現在でも称賛され続けています。

常設展示室（2） 郷土の歴史

- 松任沖海底林
- 稲作以前の松任
- 稲作のはじまり
- 豪族たちのクニ
- 律令時代の松任
- 武士の登場

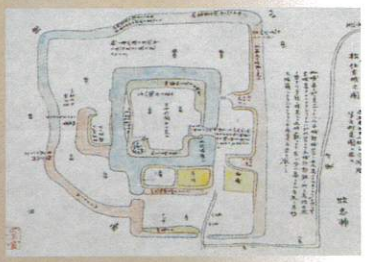
発掘調査が進むにつれ、東大寺領横江荘々家をはじめとした松任の歴史が続々と解明されています。古代から中世までを、稲作を中心に展示するとともに、その時代に生きた人々の生活や信仰をも紹介します。

竹松遺跡装飾器台

横江荘々家復元模型

墨書土器

松任城は、平安時代に一大勢力を占めていた林氏の傍流、松任十郎範光の館として成立したといわれています。1488年の加賀一向一揆により本誓寺宗誓の女婿鏑木右衛門入道常専が松任城主となります。1583年には前田利家の嫡男利長が城主となり、その後丹羽長重も入城しています。江戸時代には一国一城令により廃城とされました。



藩政時代、加賀藩の有力な在郷町として栄えた松任町、その町並を絵図として再現するほか、加賀藩を支えた農村の姿を、十村・肝煎など村の支配機構や年貢について紹介します。また、江戸時代から現代までを流通と経済を中心に、現在の松任のあゆみを、写真により展示します。

- 松任町の発展
- 近世の村
- 流通経済の発達
- 近代のあゆみ

藩政時代の手取川扇状地は、菜種の大生産地で松任町には多くの油屋がありました。また寛永（1624～1643）の頃に、油屋又兵衛が京都の水車を見習って、水車を動力とした製油法を造ってから、松任の油生産は大きく向上しました。

常設展示室（3） 仏像・壁画

法隆寺金堂の壁画は、白鳳時代の代表的傑作であり、日本美術史上最高の芸術的価値を持つものの一つでありました。そのさわやかな官能美を紹介します。

郷土の先達

加賀の千代女（かがのちよじょ）（1703～1775）

加賀国松任に生まれ、幼い時から俳句に親しみ、優れた女流俳人として全国に名声を博していました。「朝顔や　つるべとられて　もらひ水」の句が特に有名です。

松本白華（まつもと はっか）（1838～1926）

真宗大谷派本誓寺に生まれ、幼少の頃より漢籍を学び、宗学を修めます。34歳で大谷光瑩法主に随従してヨーロッパやインド等へ宗教視察に赴き、その後は門信徒の教化や子弟の薫育に努められました。

暁烏　敏（あけがらす はや）（1877～1954）

真宗大谷派明達寺に生まれ、遊学先の京都で終生の恩師、清沢満之と出会います。「歎異抄」の講鑽に努め、仏教による社会指導に心血を注ぎ、49歳でインド、ヨーロッパへ渡り、アメリカにおいても布教を行います。不幸にして失明した後もその活動は衰えることなく、日本全国にその足跡を残しています。

郷土の民俗

手取川扇状地の変革を、七ヶ用水の電飾模型等で紹介します。また、今では松任でもあまり見られなくなった農具など、農村の一年を四季ごとに展示します。他に、獅子舞や秋の報恩講など、この地方独特の祭りや信仰などについても紹介します。

- 扇状地の変革
- 手取川扇状地の春夏秋冬
- 民間信仰

松任染め

松任染めは、藍染めに代表され、型紙を使って絹や木綿の織物に模様を染め上げる「型紙染め」が主でした。また、染料に鉄分を加えた「けんぼう染め」の技法も知られていました。周辺の農村で藍葉が栽培され、これを原料にしました。江戸時代後期文化年間（1804～1817）以降に、松任染めは最盛期を迎え、紺屋役として税を納める家が77軒にも及んでいました。